

第757回 立教開宗会



清澄

平成21年5・6月
合併号

発行所

〒299-5505 千葉県鴨川市
清澄322-1

© 清澄寺

TEL 04 (7094) 0525番

FAX 04 (7094) 0527番

振替 00140-5-55501

印刷所

天津 (南) プラザー印刷

送料共1部100円

お知らせ

6月

2~6日
僧道林
27日 19:00
信行会(唱題行)

7月

21日 8:00-15:00
22日 8:00-12:00
妙見宮大祭
27日 19:00
信行会(唱題行)

8月

1日 11:00
大施餓鬼会法要
10日 1:00
盂蘭盆会法要
27日 19:00
信行会(唱題行)

第七五七回 立教開宗会法要

今年の立教開宗会は晴天に恵まれた中を、酒井日慈管長猊下大導師、副導師には当山中條別当・両親闍妙蓮寺上村貞雄所長、式衆には地元声明師会雅楽部出仕頂き、地元本山の貫首様始め多くの檀信徒ならびに和讃会有志のご参列を賜り満堂にて法要が厳修されました。



た。

唱題行

夜の七時からは、ご報恩の唱題行が行われ、求道同願会より桐谷僧正お導師に迎え参籠者と地元檀信徒ら大勢の方が参加し、山務員と共に一心にお題目をお唱えし法悦をかみしめました。

(記事四面に続く)



ご挨拶

清澄寺別當 中條 令 紹



清澄寺は日蓮聖人が出家得度され、鎌倉、京都、奈良、比叡と遊学された結果、法華經こそこの世を救う最大の経文であるとの結論に達し、先ず大恩のある虚空蔵菩薩、師匠道善坊、ご両親に之を報告し感謝報恩を尽くさなければならぬとお帰りになり、旭が森において初めてお題目を唱えられた聖地であります。

清澄寺護山会は、このような霊場を末永く護持し、発展させることを目的として、第七代別當塩田義朗上人の発願により設けられた組織であります。爾来、すでに二十有余年を経過し、当初の方針とおりの会の運営が困難となつて参りました。その為、今般護山会を活性化し、それを母体として老朽化しつつある境内諸堂の整備改修も行い、面目を一新させ題目発祥の大本山清澄寺を大聖人の御心に沿う題目道場に致したく存じます。

護山会にすでに入会されております方は、護山会規定の下にご継続頂き、今まで護山会にご縁のなかった方には、この機会に是非ともご入会頂き、当山の発展にご法助、ご寄与下さいますよう、伏してお願い申し上げます。

護山会拡充のお願い

清澄寺護山会会長 今野 宗 郎



清澄寺は皆様すでにご承知のとおり、日蓮宗立教開宗の霊場として、昭和二十四年に真言宗から日蓮宗に改宗された寺院であります。宗門直轄の寺院となり、別當職を置いて運営に当る大本山となりました。その為、当山施設の維持管理は申すまでもなく、一切の運営は当山の独立採算により行われております。

護山会はこのような当山の特別な事情に対応して、その経費の一部を支援する外郭組織として発足しました。しかしながら、別當様の御挨拶にもありますとおり、発足後二十有余年を経て、会の運営が少なからず停滞する状況にたち至っております。

一方、築後二百数十年にも及ぶ境内諸堂の中でも本院の老朽化は、近年特に著しく早急に改築・改修を要する状況でございます。

以上のような諸事情に対し、当山では別當様のご指導により護山会を活性化し、それによって会員年会費の納入率の向上と会員数の増強を図ることとなりました。

何とぞ、既に入会されております方々には、今後とも年会費の継続納入と、また未入会の方々はこの機会に一人でも多く入会下さるよう、ご法助の程よろしくお願い申し上げます。

護山会規定

入会の方法

申込用紙に必要事項を記入の上、お申し込み下さい。(郵送も可)
入会希望の方は「しおり」をお送り致しますのでご連絡下さい。

年会費の額

一口：一万円(口数は随意)

年会費納入月

毎年の八月

毎朝勤行の際、会員一家の家内安全及び先祖供養を致します。

毎年八月一日に会員先祖の施餓鬼会を催し、先祖の供養を行います。

納入会費の総計により本願人に推挙します。

研修会館の利用時、利用料金の割引をします。

護山会の事業目標

一、本院客殿・書院等建設

二、諸堂整備

三、旭が森地盤補強工事

四、その他境内整備

清澄寺大施餓鬼会(護山顕彰物故者追善法要)

御尊家の皆様にはますます御清祥の段大慶に存じます。

常々當山護持顕彰に厚い御丹精を賜わり深く感謝申し上げます。

陳者、左記の通り護山会会員各家並び護山顕彰物故者の施餓鬼法要を奉修致しますので茲に御案内申し上げます。

また、年会費のご納入を賜りたく併せてご案内申し上げます。合掌

記

一、日 時 平成二十一年八月一日(土曜日) 午前十一時より

一、於 祖 師 堂

※尚、ご参列される方は前もって当山までご連絡下さい。

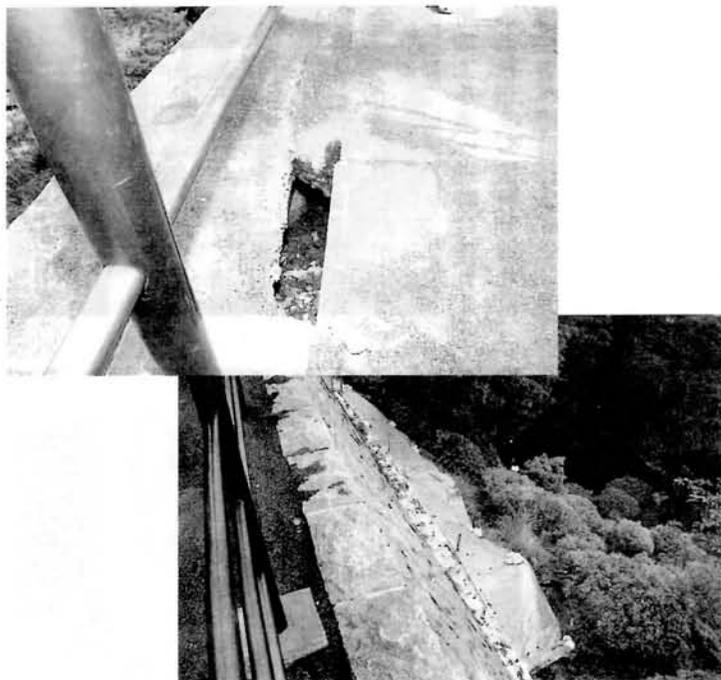
以上

旭が森の地盤

緊急補強工事 強いられる

上記の事業目標で、旭が森地盤補強工事とさせて頂きましたが、皆さんは、あの綺麗な旭が森の何処を？と、お思いになられるでしょうか、左記の写真をご覧のように、旭が森境内に陥没

が起こり、擁壁の下側地面には亀裂が見つかりブルーシートにて応急に塞いでおります。
原因の究明と補強が急務であります。



(以降は表紙の
記事の続きです)

ご来光

翌二十八日早朝の暁天法要には中條別当様導師・副導師佐々木執事長・宮崎執事、山務員、檀信徒唱題行脚にて旭が森へ、大銅像へ法味を言上し、太平洋上から昇り来る旭日に皆感動のお題目を唱えました。近年に無い素晴らしいご来光でありました。



希心会様 登山修行

例年同様、四月と五月は希心会登山修行の信者さんたちで連日賑わっておりました、本年は三月三十一日から五月二十五日まで、大勢の修行者がご登山されました。

この希心会の皆さんは、お昼過ぎにふもとの天津バイパスから行列を組み、御旗を先頭に大聖人の歩まれた旧道を中心に徒歩でお題目をお唱えしながらご登山されます。

夕刻、清澄寺へ到着されるやすぐに修行に入り夜遅くまで、更には早朝暗いうちから旭が森にて修行に入り、その後、朝勤に参列され、中條別当様の法話開帳後朝食を済ませ、休む間も無く行列にて徒歩で下山されました。

この日程で各地の支部から数十人、多い地区では数百名でご登山されておりました。

日青会行脚

五月十二日(日蓮聖人清澄入山会)に合わせ、又、御降誕八百年に向けて清澄より小湊誕生寺まで唱題行脚が行われました。

清澄を出発時は、青年会会員の十数名でしたが、清澄登山道へバイパスへ進むに連れ、町内へ小湊へ進むに連れ、人数は増え、大行列となり誕生寺へ。

当日は真夏日であり参加の人々も体調に気をつけながら無事到着しました。



談話室

開宗会といえますと、特別大行事となった昨年の別当就任式から、早一年が過ぎたわけですが、思えばアット言う間の月日でした。

別当様も北陸の地と房総の地を行ったり来たりと忙しく過ごされておりますが、その過酷な移動にもだいたい慣れてこられた様子です。

山務員一同も別当様の人柄に、山内一つとなり頑張っております。

今号で、お知らせさせて頂きましたが、護山会の活性化が動き出します。

何かにつけても、皆様の健康と家内安全、そして先祖の菩提ご回向を清澄寺の指針として頑張っていきたいと思っております。

何卒よろしくお願致します。

